

グリーンコープの「子どもの居場所」づくりの取り組み

子どもたちが安心して、ありのまままで過ごせる場所を



ある日の日明けんきもりもりハウスのようす。ボランティアの大学生と一緒に楽しそうに遊ぶ子どもたち

グリーンコープの「子どもの居場所」づくりは、子どもたちが安心して過ごし、健やかに成長できる地域をつくっていく取り組みとして、2015年にスタートしました。現在、グリーンコープが直接運営する「子どもの居場所」が2カ所（準備中を除く）、運営に参加している地域の居場所が2カ所、食材を提供し、運営をサポートしている居場所が23カ所あり、今後も取り組みの広がりが考えられます。

グリーンコープが直接運営する初めての常設型の「子どもの居場所」、「片縄げんきもりもりハウス」取材しました。グリーンコープが「子どもの居場所」づくりを始めた経過やほかの居場所と併せて紹介します。

「げんきもりもりプロジェクト」を立ち上げて子どもたちを応援

厳しい社会状況の中、「6人に1人の子どもが貧困状態にある」と政府が発表したのは5年前のこと。街中に食べものが溢れる時代に食事を摂ることもできない子どもたちがいることは、にわかには信じ難い事実でした。

グリーンコープは、子どもたちの現状に対して、生協としてできることで何とかしたいと考え、2015年に「げんきもりもりプロジェクト」を立ち上げます。当時、子どもたちに無償、あるいは安価で食事を提供する「子ども食堂」の取り組みが全国に広がっていました。

プロジェクトでの検討を重ねる中、「子ども食堂だけでは子どもたちを取り巻く問題を解決することはできない」と考えました。訪れる子どもを無条件に受け入れ、子どもたちが安心して過ごせる安全な場所を準備し、地域の方とも協力しながらすすめることにしました。

そこに行けば自分の話をきかんと聞いてくれる大人がいる。ありのままの自分を受け入れてもらえ、子ども同士で育ち合える。時にはみんなと一緒に食事ができ、その中で基本的な生活習慣を身につける機会もある。そのような、学校や家庭だけではできない支援が地域の中に数多く存在することが、現代の子どもたちを取り巻く問題の解決

につながると考えます。**「子どもの居場所」づくりで広がる新しいつながり**

「子どもの居場所」づくりの取り組みをすすめる中で、同様の志を持つ地域の皆さんや学校関係者の皆さんと出会いました。グリーンコープの取り組みも多くの方に共感していただいています。

「子どもの居場所」は、時には子どもたちと高齢の方々が交流する場となり、勉強をしたい子どもたちが学べる場にもなっています。子どもだけでなく地域のさまざまな人たちの居場所となりつつあります。

グリーンコープでは、直接運営する常設の「子どもの居場所」を地域に広げていきたいと考えています。片縄げんきもりもりハウスに続き、今年4月に福岡市東区に開園した「社会福祉法人グリーンコープ名島りすの森こども園」に隣接する建物を活用し、子どもたちがいつでも訪れることができる居場所を準備中です。また、熊本市内でも常設の居場所を検討しています。

グリーンコープが設立以来めざしてきた「住んでる街を住みたい街に」の一つの形が、「子どもの居場所」づくりを通して実現しています。今後も地域の皆さんにご協力いただきながら、「子どもの居場所」が地域に広がり、末永く存続していくよう、取り組みをすすめます。

グリーンコープが直接運営する「子どもの居場所」

片縄げんきもりもりハウス（福岡県那珂川市）

学校でも家庭でもない、子どもたちが安心して過ごせる場所

「片縄げんきもりもりハウス」は、グリーンコープの福祉複合施設「ふくしセンター那珂川」から歩いてすぐの閑静な住宅地の中にあります。毎週月・木・土曜日の午後1時から5時まで、子ども



子どもたちは、友だちの家や親戚の家のように気軽に訪れる



広々として日当たりのよいリビングルームで、ゆっくりのんびり過ごす

たちの居場所として解放。子どもたちはここで、宿題をしたり、子ども同士やスタッフと遊んだり、本を読んだり、思い思いに過ごします。2018年11月にプレオープンし、2019年度中には毎日開所できるように準備しています。

「もともと民家だったので、部屋がたくさんあります。子どもたちの一番人気の遊びは、かくれんぼです」と管理者の辻恵美さん。プレオープン後、1回あたり10人前後の小中学生が利用しています。小さな子どもを連れられたお母さんたちの参加も多く、グリーンコープの子育てサポートワーカーもスタッフとして関わり、「親子ひろば」も月2回開催しています。

市は、子どもたちの自立相談支援事業や家計改善支援事業なども受託しており、グリーンコープの地域福祉はこの地域に根づいています。子どもと一緒に訪れていただくお母さんに感想を聞くと、「ここはゆっくりできて落ち着きます」と返ってきました。

ふくしセンターが培った人のつながりを活かして
辻さんは、ふくしセンター那珂川のワーカーでもあります。ふくしセンター那珂川は、毎年まつりを開催して近隣の皆さんと積極的に交流するなど、地域とのつながりを大切にしてきました。また、グリーンコープが那珂川

「見守りのスタンスで子どもたちと関係をつくることから始め、一人ひとりの子どもの個性を大切にしたい」と思っています。辻さんは抱負を語りました。
※小さな子どもを持つお母さんたちの息ぬきの場、子どもたちがのびのび遊べる場

日明けんきもりもりハウス（北九州市）

2016年9月に北九州市のモデル事業として社会福祉法人グリーンコープが受託し、2018年4月よりグリーンコープの自主事業となりました。



「いただきます」。毎日にぎやかな食事風景

た。日明校区まちづくり協議会の協力を得ながら、毎週木曜日の夜、小倉北区の日明市民センターで開催しています。

グリーンコープの組合員有志「いきいきボランティアくらぶ」が中心となって食事作りと運営を担っています。訪れる子どもたちは、ボランティアの大学生や地域の方たちと一緒に、グリーンコープの食材を使った温かい夕飯を食べて遊んだり、宿題をみてもらったりして過ごしています。

別保の森もりもりげんき館（大分市）

2017年7月から2019年3月まで、大分市子どもの居場所づくりモデル事業として、グリーンコープ生協おおいが受託して取り組みました。地域の方々や大学生



大学生や地域の方たちと一緒に工作づくり

によるボランティアの協力を得ながら、毎週火・木曜日に市内の公民館で開催。2年間に参加した子どもたちは1440人、ボランティアは1022人でした。

夕食の支度や後片付けなどを皆で一緒に行うことで、子どもたちが基本的な生活習慣を身につけることができました。別保の森もりもりげんき館は終了しましたが、今後、地域に子どもの居場所が広がっていくためのきっかけとなりました。